



学校だより

はと広場

4 月 号

令和 3 年 4 月 8 日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

希望～未来を信じる力～

校長 三村 悟

令和3年度が始まりました。桜、チューリップ、花水木、今年の春は一度にやって来たようです。昨年度は耐えることの多い1年でしたが、今年は多くの花が咲くことを期待出来そうです。

今年、北浦和小学校は開校75周年となります。4分の3世紀となるこの年を迎えるためには、多くの先輩方の努力があったことと思います。例えば、花水木の開き始めた「はと広場」は、40周年の年に整備されたものですし、きれいなチューリップの咲いている中庭は、50周年記念事業として作られたものです。当時の記録を紐解くと、地域の皆様、PTAの方々が力を合わせて学校を盛り上げてくださったことがよく分かります。

目の前にいた児童はもちろんのこと、10年後、20年後に北浦和小に通う児童の笑顔を描いて汗を流して下さっていたのです。校歌の歌詞にある「日本の若い力」を、地域をあげて育てようという思いが伝わってきます。未来を信じる熱い思いに胸を打たれます。



体育館前の桜（4月2日）

これからの教育を語るときに、「予測が困難な未来」という言葉をよく使います。だから、「多くの情報の中から何が必要か主体的に判断する力」や、「他者と協働しながら最適な解を見付ける力」を育てる必要があると言われます。さいたま市でも、「世界と向き合い未来の創り手として 輝き続ける人」という目指す人間像を掲げ、第2期さいたま市教育振興基本計画に基づいて新しい教育に取り組んでいます。

先輩方の足跡を振り返って改めて思うのは、「未来は明るく出来るのだ」と信じる力こそが大切だということです。「予測が困難」と言われると、目の前が暗くなってきそうですが、未来を100パーセント予測できる人など誰もいません。だからこそ、一人一人の児童が未来を信じ希望をもつことが大切な時代と言えるでしょう。白血病を克服し、東京五輪の水泳リレー代表となった池江璃花子選手は、昨年夏、国立競技場で聖火を灯したランタンを手に「逆境からはい上がっていくときには、どうしても希望の力が必要です」と語っていました。

未来を信じ希望をもつために、今年は先輩方がのこしてくださった数々の「レガシィ」を再発見し、手を加え新たな価値を付け加える1年にしたいと考えています。卒業生の皆様から「はと広場」や中庭、美術通りなどの由来や楽しい思い出なども教えていただければ幸いです。そして、来るべき100年に向けてのスタートを切る年にしたいと思います。

今年も「【感謝と貢献】一人ひとりが幸せになる学校」を学校経営の理念として、地域の皆様の学校に対する愛情にお応えできるよう、保護者の皆様の期待にお応えできるよう、教職員一丸となって精進いたしますのでよろしくお願いいたします。

北小 Revival～ありがとう75年 100年に向かってスタート